

〔平成19年10月4日〜12月28日〕

これからの日本と台湾が見えてくる

10・4 与那国から初のチャーター便

与那国空港から桃園国際空港へ、初めてのチャーター航空便。与那国から台湾までは百十キロと近いが直接の交通手段がなかった。

10・16 花蓮運に日本の観光客船

六百人以上の客を乗せた大型国際観光客船「飛鳥II」が花蓮に寄港。花蓮県の政府、観光協会による歓迎セレモニーが開催された。

10・18 「青森・台湾友好の翼」

青森県日華親善協会設立三十五周年を記念した青森空港発のチャーター便「青森・台湾親善友好の翼」が台湾へ。一行は百五十人。

10・19 台湾でも「楽天市場」を

朝日新聞によると、楽天はインターネット上の「楽天市場」の初の海外展開として、台湾で顧客を増やす計画。現地の流通関連企業と合弁会社を設立し、平成二十年での営業開始を目指す。

10・20 JTB時刻表が台湾新幹線特集

JTB時刻表十一月号が台湾新幹線大特

集。表紙も巻頭グラビアもすべてその写真。もちろん時刻表や運賃表も収録。

10・21 高雄市国楽団公演が甲府で

甲府市の山梨県民文化ホールで高雄市国楽団の公演。台湾出身の歌手寒雲さんも出演。

10・23 訪台の外国人で日本人がトップ

台湾観光協会が発表した統計によると、平成十九年九月での日本人の訪台者数は十万一千八百三十五人。一〜九月の累計では八十六万一千八百五十四人で、昨年同期より一・九三%増（訪台外国人中、三二・九%）。台湾人の台湾からの訪日者は九月は十万五千四百七人。一〜九月は九十七万八千三百六十九人で、前年同期比四・四〇%増（出国台湾人中、一四・二%）。

10・28 増える青森への乗り入れ

東奥日報によると、平成十九年は、台湾から青森空港へのチャーター便乗り入れが増加している。運航済み・運航決定は計三十八往復で、四〜九月の利用者は約五千七百人に上る。岩手県の花巻空港発着便と組み合わせた東北周遊旅行も好評だ。

10・31 日台関係は「緊密」が八割

駐日代表処の朱文清広報部長は、「最近、

日本で行った世論調査で、日台関係は緊密かどうかの質問に、八〇・二%の日本人が緊密であると回答した」と述べた。しかし「八四%の人は台湾へ行ったことがないと回答しており、今後の光客拡大には大いに努力する余地がある」とし、台湾訪問を呼びかけた。

11・1 日台航空協定が改訂

交流協会と亜東関係協会が日台航空協定の改訂を締結。これにより日本の定期航空路線の航空会社は二社から三社に、台湾のチャーター便の航空会社は二社から四社に。「台北―小松」線と「台北―宮崎」線も新設へ。

11・2 北海道で商談イベント

台湾との貿易活性化を図る「北海道産食品商談会」が札幌市内のホテルで。釧路―台湾ビジネスマッチング協会の加盟企業と台湾の企業が交渉を進めた。

11・4 台湾観光の紹介番組

Lalaテレビで台湾紹介番組「旅に恋して〜台湾」が放映開始。一般的な観光旅行と異なる体験的で、地元の人々との交流もある日本人の目からみた台湾の旅を各観光スポットを含めて紹介する内容。台湾政府の指導、協力の下で制作された。

11・12 九州と台湾が観光促進協力協定

九州観光推進機構と台湾観光協会が「観光交流友好協力協定書」を締結。平成十八年に九州を訪れた台湾人客は十一万一千人と、九州観光ブームは高潮であり、さらなる発展に期待が寄せられている。

11・15 埼玉県で高校交流

埼玉新聞によると羅東高級商業職業学校の訪日団が、坂戸西高校を訪れ、交流会でお互いの校歌を披露するなど親交を深めた。

11・15 都内で雲林県農産物フェア

雲林県政府および同県の農業関連団体一行が同県産レタスなど特産品のセールスプロモーションのため来日し、都内で県政府主催の「台湾雲林県優良農産物フェア」を開催。

11・20〜21 経済関係の強化で合意

交流協会と亜東関係協会が都内で第三十二回日台貿易経済会議。両国の各省庁の代表が出席し、経済関係のさらなる強化で合意。

11・23 五千人の台湾人ファンが熱狂

台湾で爆発的な人気を誇る歌手倉木麻衣さんのコンサートが台北市で、五千人のファンを熱狂させた。

11・24 台湾アイドルグループのイベント

台湾のアイドルグループ、飛輪海が都内で

日本デビューアルバム「発売記念イベント」会場には二千五百人のファンが押し寄せた。

11・29 免許証相互承認は反響大

九月末に日台自動車運転免許証の相互承認制度が実施されて二カ月。外交部によると、「日本人観光客の台湾での申請は三千件に近く反響は大。台湾人観光客も福岡や北海道などでレンタカーを借りて旅行している」と。

11・29 霞会館が台湾緋桜を寄贈

駐日代表処は、旧皇族および旧華族関係者等で組織する「社団法人霞会館」より台湾緋桜三本の寄贈を受け、公邸の庭で植樹式。北白川道久理事長は「今後一層、日台文化交流が深まることを願っている」と挨拶した。

12・7 和解のための記念碑が序幕

台湾のバイワン族が漂着した宮古島住民を殺害し、日本の台湾出兵を引き起こした牡丹社事件から百三十年。それを記念した「愛と和平」記念碑の除幕式が、戦場となった屏東県牡丹郷の石門で。宮古島市長や屏東県長、丹郷長らが出席した。碑は日本人とバイワン族がともに酒を飲む姿を表現した石像。

12・6 経済関係の一層の強化に期待

日台経済交流の推進役である東亜経済人会

議の三十五周年記念会議が台北で。陳水扁総統も出席し、「両国の〇六年における貿易額は六百二十五・八億米ドルにも達する。日本は台湾にとり第二位の貿易パートナーで、台湾も日本にとっては第四位。協力関係が一層強化されることを希望する」と述べた。

12・12 留学生が国会見学

台湾人留学生三十五名が国会を見学し、亜東親善協会所属の国会議員と懇談した。「日本を知ってもらおう」と同協会が招待した。

12・12 天長節レセプションが高雄と台北で  
交流協会台北事務所（大使館）は台北市内のホテルで天長節奉祝のレセプション。邱義仁行政院副院長、黃志芳外交部長、王金平立法院長のほか、政界、経済界の要人が出席した。黄外交部長は「天皇陛下を始め日本政府と国民に祝賀の意を表することができ光栄」と挨拶。同協会高雄事務所（領事館）もレセプションを開催した。会場では陳菊高雄市長が「高雄で初の祝賀会。日本が高雄を重視している表れ。ますますの交流を」と訴えた。

12・12 ドラマの狙いは観光誘致

台湾観光局のプロジェクトドラマ「君につ

づく道」(二十二話)がBS日テレで放映スタート。各地の観光地を舞台とし、ストーリーを追っているうちに台湾へ旅立ちたくなるという仕掛け。

12・14 沖縄県知事が台湾で観光PR

仲井真弘多・沖縄県知事が台北国際旅行博で沖縄観光をアピール。「台湾から近く、暖かい沖縄を訪れてください」と呼び掛けた。中華航空やスタークルーズ社も訪問し、送客への協力を要望した。

12・14 日台地方交流に期待

許世楷駐日代表が仁坂吉伸・和歌山県知事を訪問。同知事は「昨年、県を訪れた外国人観光客は十三万人だが、その三分の一は台湾人客。さらに多くの人に訪れてほしい」と述べた。許代表は「来年は『台日地方交流年』にする計画。これにより両国の地方間の交流が強化され、共に繁栄して行くよう願っている」と述べた。

12・14 深い繋がりを持つ日本は台湾支持を

許世楷駐日代表は講演で「台日間の歴史は古くから深い繋がりがあり、さらに地理的にも近く、李登輝前總統の年代の人々の日本への理解は深い」と語った。そして「台湾がも

し中国に併呑されれば日本にとっても不利。同じ民主主義国家として、台湾の国連加盟を支持すべき」と訴えた。

12・16 日本語で関係強化を訴え

謝長廷・民進党総統候補が来日し、母校の京都大で日本語講演。日本版「台湾関係法」の制定や京都議定書への台湾の参加を認めるよう訴えた。

12・17 竜馬像前で「台湾維新」を語る

謝長廷氏の理念は明治維新に倣った「台湾維新」。維新の志士。坂本竜馬と中岡慎太郎の銅像前に台湾人記者団を集め、その理念を説明した。その後、東京に向かい「台湾維新と強国富民」と題して講演した。

12・18 「日米陣営」の総統候補

謝長廷氏が都内で記者会見。台湾安保に関し、日本は最も重要な友邦で、共通の防衛目標と利害関係を打ち立てる必要があるとし、日米安保体制を支持すると表明。対中従属路線を行く対立候補との違いを際立たせた。

12・18 親しみやすい観光客

台湾週報によると、サミット開催予定地の洞爺湖を訪れた外国人観光客で台湾人がトップ。平成十八年、同湖畔に宿泊した人数は十

万三千四百九十九人で、第二位の韓国人客の約二・五倍だ。地元観光協会は「台湾人観光客の印象は非常に親しみやすいこと。雪の中であそぶ姿が印象深い」と語る。

12・19 商店街がもてなしの看板

増え続ける台湾人観光客が安心して食事できるよう、金沢市の木倉町商店街は「全店が明朗会計」との漢語看板を設置。もてなしの心の反映だという。

12・25 「涙そうそう」で会場すすり泣き

台湾で大人気の夏川りみさんが二年連続の台湾ライブ。「涙そうそう」を歌い出すと、会場のあちこちからすすり泣きが。

12・28 日本の覚醒に期待のコメント

訪中した福田康夫首相が媚中根性から、温家宝首相の前で台湾の国連加盟を巡る国民党票に不支持を表明したことに関し、台湾外交部は「台湾国民の知恵を信じ、民主国家として持つ権利の行使を尊重してほしい。台日関係は密接不可分。今後も安定した基礎の上に発展して行くものと認識している」とし、なおも友邦の覚醒に期待のコメントを発表。日本はそれをいつまで裏切る。

【永山英樹】